

日本医療 社会福祉 学会ニュース

■事務局(公社)日本医療社会福祉協会事務局内
〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-20
四谷ヂンゴビル2F
TEL 03-5366-1057
FAX 03-5366-1058
郵便振替口座 00200-0-72951
E-mail: jsswh-post@jaswhs.or.jp
URL <http://jsswh.umin.jp/>

巻頭言

第23回 日本医療社会福祉学会大会 2013年9月7日・8日 『人は何を支えに生き抜くのか ～レジリアンスの視点から～』

開催校 国際医療福祉大学大学院
大会長 相原 和子

およそ30年前、私は保健医療領域のソーシャルワーカーとして仕事に就き、研修後、初めて一人でクライアントと面接したときのことを今でも鮮明に覚えている。最初の相談は、アルコール依存の妻を抱える夫からであった。今思い出すと、面接は、顔から火が出るほど稚拙で酷いものであった。初日の二番目の面接は、夫も子供たちも重い神経難病に罹患して入院中のご家族との面接であった。前者のクライアントからは、家庭・生活が崩壊していく壮絶な歴史をうかがい、後者のケースでは、「もう疲れました。夫も子供たちも、そして私も、なぜ生き続けなければならないのでしょうか?」と問われた。私は、それまでの人生の歩みへの、ねぎらいの言葉しか出なかった。ソーシャルワーカー初日の私は、クライアントの抱える苦悩の深さに圧倒され、自身が身動きとれないほどの無力感・疲労感に襲われ、これからのソーシャルワーカーとしての仕事にたじろぎをおぼえた。そして、この根源的問いの答えを心の片隅で模索し続けながら、その後20年間、多くのクライアントの苦悩と共に、私も生き続け、仕事を続けた。一方、その過程で、また多くのクライアントが、それぞれの苦悩の底から立ち上がり、生き抜いていかれた。私はその喜びも共にしてきたのである。このようなクライアントの生き抜く原動力となったものは何か? その力はどこから来るのか? 何を支えにしているのだろうか?

本学会の理事会においては、ソーシャルワーカーにとって、共通するこのような根源的問題について熱く議論し、今年度の大会テーマとして取り上げることにした。東日本大震災、多くの自然災害、あるいは凶悪な犯罪、事故、重篤な病いや障害等々…現代の多様なリスク社会のなかで、苦しみ、悩み、不安に苛まれて生きている人々への支援について考えるとき、それでもなお生き抜いていく力の源、それを支えている要素について、丁寧に掘り下げていく作業を行うことが、本学会の使命の一つでもあると考えている。

このような趣旨のもと、基調講演者として、加藤 敏 自治医科大学精神医学教室主任教授をお迎えすることができたことは、学会として非常に光栄であり、またご講演に期待するものが大きい。それは必ずや、私たちの明日からのソーシャルワークに大きな刺激と力を与えて下さることと思う。

基調講演に引き続いて行われるシンポジウムでは、大会テーマを、より多角的に検討する。また本学会が大切にしている事例部会においても、一つの事例を通して、皆でこのテーマについて考えていく。さらに会員の自己研鑽の発表の場でもある分科会では、活発な意見交換をして相互の啓発に努めることとしたい。多くの会員の方々のご参加を期待しております。

第23回 日本医療社会福祉学会大会 シンポジウムについて

「人は何を支えに生き抜くのか」、重いテーマである。この大会テーマを今回はシンポジウムのテーマとした。

医療の現場で、重い疾患を抱えて生き抜く患者・家族と共に生きることを、生業とする職を選んだ時、このテーマは我々の生涯の問いとなった。そして、今回の大震災があった。17年前の阪神・淡路大震災で学会として経験した中で得た、知識と技術は職能団体の活動の中で活かされている。

津波のあとの地域で、これから起こることを見据え、復旧・復興の狭間で苦悩する人々が持つ力から、学ぶことは計り知れなく多い。その力を、3方向から今回は検討する。勿論震災に限定しない「生き抜く力」がテーマである。

まず、医療ソーシャルワーカーの横山三佳氏は「失望という体験」を生きるクライアントにソーシャルワーカーはどのように向き合えるのかをサブテーマとして『夜と霧』に記されたV.E.フランクルの実存体験を手掛かりにテーマについて発言する。

続いて、ジャーナリストであり映画「生き抜く」のプロデューサーである、毎日放送報道局ニュースセンター「VOICE」編集長の井本里士氏が発言する。今回の学会のシンポジウムに新たな視点で、このテーマを検証するためお願いしたシンポジストである。氏は『薬害ヤコブ病—見過ごされた警告（生命と環境）』の著書を1999年に著されているように、被害者の視点から鋭い警告を社会に発するジャーナリストである。ニュース「VOICE」では何よりも「生活者の視点」を、どんな大きなテーマの報道に関しても見失わない姿勢を保持しているとのことである。三陸町の人々の生き抜く力をどのように捉えたのか、期待したい。

3人目をお願いしたシンポジストは桜美林大学大学院老年学研究科 教授 白澤政和氏である。氏は社会福祉学の立場から発言する。前社会福祉学会の会長であり、ソーシャルワークに与えた影響が最も大きい研究者の一人であることは、あまりにも有名である。氏は、ストレングスモデルの視点からこのテーマを検証する。

司会は大会長の相原和子氏が担当し、この議論の展開を司る。

シンポジウム 人は何を支えに生き抜くのか

9月7日（土） 15：00～17：30

シンポジスト：

横山 三佳 医療ソーシャルワーカー

井本 里士 毎日放送報道局ニュースセンター「VOICE」編集長

白澤 政和 桜美林大学大学院老年学研究科 教授

司会：相原 和子 国際医療福祉大学 教授